

## 幸福の足袋

事業責任者： 細谷龍平（国際地域学部・特任教授）

代表学生： 内田優香（国際地域学部・2年）

概要	
	日下部・グリフィス基金は、福井県の青少年の国際交流支援とともに、明治初期に福井に招かれて来たアメリカ人教師ウィリアム・グリフィスの功績を顕彰することを目的としている。そのため特に令和2年度からはグリフィスが当時福井で開いた日本初の公のクリスマスパーティーをその発祥地（現グリフィス記念館）で再現するなどの事業を地域貢献事業支援金も得て実施して来ている。グリフィスの来日・来福150周年を迎えた令和3年度まではこれらの事業を「福井で見るサンタの夢」と題して行ったが、令和4年度はその成果も踏まえ、新たに「幸福の足袋」のコンセプトのもとに関連事業を一体的に推進した。
関連キーワード	幸福の足袋、グリフィス、サンタクロース、スタンプラリー、願懸け足袋

### 事業の背景および目的

本事業の目的は、福井の国際化の原点となったグリフィスへの認知度をさらに高めるとともに、同人が催したクリスマスパーティーが公のものとしては日本初であったことを広くアピールし、今後もこれを恒例行事として定着させていくことで福井の地域興しにつなげることである。

### 事業の内容および成果

#### （1）本「幸福の足袋」の出版

本年度はグリフィスが福井で開いた日本初の公のクリスマスパーティーで同居の生徒たちに贈ったプレゼント入りの足袋を象徴するコンセプト「幸福の足袋」を統一テーマとして諸事業を展開した。その一環として、グリフィスの半生を描いた同名のタイトルのノンフィクション小説を細谷が執筆し、日下部・グリフィス基金から11月16日に発刊した。福井県内書店およびAmazonで2月末までに合わせて82冊販売した。

#### （2）クラウドファンディング

福井青年会議所がMakuake社に委託して行った「ふくいのでいいコトいいモノチャレンジプロジェクト」に日下部・グリフィス基金が参加し、主たるリターンとして本「幸福の足袋」を発刊前事前割引販売の形で応援者55名に送った。

#### （3）スタンプラリー

11月12日～12月25日、福井駅からグリフィス記念館までのスタンプラリーを行った。（グリフィス記念館、日本旅行福井駅店、福井市観光案内所、柴田神社などと連携）ラリーカード約1,000枚を消化し、164人が完了した。

#### （4）グリフィス記念館の装飾

館内（11月7日～12月25日）と外壁照明（電飾およびロゴプロジェクション。11月15日～12月25日）の装飾を行った。記念館の玄関にはグリフィスの着ぐるみ（福井青年会議所より無期限で借用）をマネキンに着せたマスコットキャラクターに「幸福の足袋」を持たせて設置した（通年）。

#### （5）「願懸け足袋」

11月12日～12月25日、グリフィス記念館の来館者に、白足袋に願い事を書いてクリスマスツリーに吊り下げてもらった。298人が参加した。

#### （6）留学生とのオンラインクリスマス交流会

12月18日、グリフィスについてのテレビ番組抜粋の上映、グリフィスの童話の朗読、クリスマスキャロルの合唱などを行った。69人が参加登録、当日は約45人が参加した。

#### （7）グリフィスに纏わるスポット体験イベント

12月25日、上記（2）のクラウドファンディング事業などで募集した人を、福井駅からグリフィス記念館までのスタンプラリーのコースに沿って学生が案内するツアーを実施した。8人が参加した。

### 参考文献・添付資料および特記事項等

#### 添付資料

1. 本「幸福の足袋」表紙
2. スタンプラリー台紙

# 事業名称: 幸福の足袋

事業責任者: 細谷 龍平 (国際地域学部・特任教授) 代表学生 : 内田優香 (国際地域学部 2年)

2022年4月～2023年3月

## 幸福の足袋

### 目的

地域の先人ウィリアム・グリフィスが1871年に福井で開いた日本初の公のクリスマスパーティーを再現し、それにまつわる「幸福の足袋」をシンボルとして定着させていくことで地域興しにつなげる

### 地域連携・学生の学び

公益財団法人 日下部・グリフィス学術・文化交流基金が県内企業、自治体他と協働で実施した各行事に福井大学国際地域学部のPBL履修生9名”Willie’s Angels”が主体的に参画。

